

# Visual Identity

## 見える記号 見えない記号



「見える記号」はカタチをまとい、目にする人の心理深層で少なからず化学反応する。

文字であれ、数字であれ、得体の知れぬ形であれ、である。

必要とされるデザイナーは、正しい化学反応を起こせるだろうか？

時代が求めるカタチと目される記号を、つくり出せるだろうか？

答えは、YES とは言えない。

「見える記号」を最適化するだけでは、流行の潮に連れ去られるだけだからだ。

「見えない記号」が、内にも外にも肝要なのである。

クライアント理念と、利用者との間に流れるコミュニケーションを形而することが

重要なデザインの資質、源流なのだ。

カタチはない、しかし熱はある、時に激しく、時に繊細に。

まるで龍のように気高く、神経質な生き物である。

これは、不易でなければならない。

SPLUSO では、「見えない記号」のイメージングに時間の多くを割く。

「見えない記号」が独自で、柔軟で、簡潔であればあるほど

「見える記号」は自信に満ちあふれる、そう信じている。

デザインは、クライアントとデザイナー相互の調律なのだから。